

10がつのくもの子の云だより

〈H.25.9.27〉

今年の夏の猛暑がや、とさり、すじやすい秋となっていますが、まだ日中は暑いですね。すじやすい秋の季節はあ、という間にすぎゆでの二の気持ちいい時期を、味わいそなわないう。しっかり満喫したいなあと思ってる私です。

小さな森のこども園のうちの子どもは、2泊3日のおとまりキャンプを無事におえ、今度は、うんどう会に向けて、また成長をみせてくれると思ってます。午前中の活動でうた、たり、リズムで動いたりする姿をみて、くもの子に参加してくださる方々にも、子どもらの成長を感じていただければと思ってます。

〜「かまんのできる子を育てる7つのコツ」〜 (9月号のつぎ)

コツ③ お手伝いをさせること

子どもは、2歳ごろから母親がテーブルを拭いたりすると、それをまねしようとしたりします。3歳をすぎると積極的にお手伝いをしたがるようになります。

未熟だからかえってじゃまになるかも知れません。しかし、まずは、(おす、へたを問題にするのではなく、子どものやる気を大切にすることです。お手伝いをすることで、子どもは生活技能を身につけ、自分もできるんだという有能感や、家族としての自覚を高めます。

そして、さらに大切なことは、お手伝いには、耐性を育てる面があるということです。

お母さんに頼らずにお手伝いを最後までやり抜くには、他のことをしたい、欲求のままだありたいという自分の心にブレーキをかけることが必要です。つまり、お手伝いをやり遂げていく過程には、他のことを



かまんと、今すべきことをするという耐性の訓練があるのです。

コツ④ 叱るべきときには叱ること

1、2歳児ではまだ善悪を判断する能力がありません。しかし、悪いことをしたときは、それでも(いや)叱ります。言葉はわからなくとも声の調子や表情からその意味を感じとることはできるからです。

3歳をすぎると善悪がかなりわかってきます。子どもは叱られる体験をとおしてよいこと、いけないこと、区別を学び、欲求のまに行動しようとする衝動にブレーキをかけられるようになります。

また、叱るときは子どもの耐性の発達に本当に効果をもつのは、日ごろから子どもに対して、物ごは、心の愛情を十分与えていることが大切です。

愛情のない叱責は、親に対する不信を増すだけだからです。

なお、よいことをした時は、しっかりほめてやりましょう。子どもは、ほめられることにより、勝手にしたいという気持ちを抑え、もっと自分を向上させようという意欲を高めていくからです。

〈子どもにガマンさせすぎ？甘やかしすぎ？より〉

